

形成外科 レーザー治療

北九州市立八幡病院 形成外科では、太田母斑・扁平母斑・異所性蒙古斑などの各種あざや単純性血管腫、乳児血管腫などの血管腫に対し、それぞれ保険適用となる**レーザー機器を所有**しております。適応については**皮膚科や小児科とも連携**し、内服治療や手術を含め最適な治療法をご提案し、安全かつ効果的な施術を実施いたします。患者様をご紹介いただく際に診断や治療時期に迷われる場合であっても、まずはお気軽にご相談ください。

形成外科 主任部長 田崎 幸博

Vビーム色素レーザー



Vbeam II
シネロン・キャンデラ株式会社

- 単純性血管腫
- 乳児血管腫（いちご状血管腫）
- 毛細血管拡張症

上記のような赤あざをレーザーの作用で消退させる治療です。

当科で使用しているVbeam II レーザーは、正常な皮膚を水冷で保護しつつ、血管に作用する機能を持っています。

乳児血管腫は、症状によっては内服治療も有用であり、小児科と協力して治療を行っています。

「保険適用」
単純性血管腫、乳児血管腫、毛細血管拡張症
レーザーが適応にならない場合も、
手術で対応が可能ながあります。



Qスイッチルビーレーザー



Q-SWルビーレーザー
MODEL IB101
株式会社エムエムアンドニーク

- 褐色の色素性病変である扁平母斑
- 青色の太田母斑
- 外傷性刺青

メラニン色素の吸収率が高い波長帯をもつことが特徴で、周囲の肌へのダメージを最小限に抑えながら、色素を破壊する効果があります。先天性のものでは年齢が低いほど効果が出やすくなります。

「保険適用」
太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着症、扁平母斑
レーザーの適用にならない血管腫であっても、
手術で対応が可能ながあります。



炭酸ガスレーザー

レーザー自体に保険適応はありませんが、小腫瘍やほくろ、陥入爪に対する外科的治療の際に使用することがあります。細胞内の水と反応して熱エネルギーが発生し、蒸散、蒸発により浅く削ることや深く掘ること、出血を抑えて切開することができます。通常メスやラジオ波メスなど、特性を考慮して選択しています。